

学会員（教員）研究動向〔2018.4～2019.3〕

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
秋葉 武	著書(共著)	『Panasonic NPO サポート ファンドの組織基盤強化の社会的インパクト評価報告書—NPO 法人CAP センター・JAPAN における組織基盤強化の社会的インパクトより—』(岸本幸子・田口由紀絵, 公益財団法人パブリックリソース財団) 1-52頁	2019. 2
	研究発表等 (単独)	「日本の NPO と社会政策」(日韓 NPO 研究会, 於: 立命館大学衣笠キャンパス)	2019. 1
	研究発表等 (単独)	「子ども NPO の動向と日本社会」(日韓 NPO 研究会, 於: 立命館大学衣笠キャンパス)	2019. 2
飯田 豊	著書(共編著)	『現代文化への社会学—90年代と「いま」を比較する』(高野光平・加島卓・飯田豊編, 北樹出版) 11-22・43-53・124-135・157-169頁	2018.11
	著書(分担執筆)	『ポスト情報メディア論』(岡本健・松井広志編, ナカニシヤ出版) 77-91頁	2018. 9
	著書(分担執筆)	『スクリーン・スタディーズ—デジタル時代の映像／メディア経験』(光岡寿郎・大久保遼編, 東京大学出版会) 45-67頁	2019. 1
	研究発表等 (単独)	「『ポストメディア』の可能態—『〈メディア研究〉の終焉』を考える補助線として」(Cultural Typhoon 2018, 於: 龍谷大学大宮キャンパス)	2018. 6
	研究発表等 (単独)	「メディア研究としての『歴史修正主義とサブカルチャー』」(日本マス・コミュニケーション学会第36期第10回研究会〈理論研究部会企画／関西メディアフォーラムとの共催〉, 於: 関西大学千里山キャンパス)	2018. 7
	研究発表等 (単独)	「TECHNOLOGY×MEDIA EVENT」(シンポジウム「通信技術と未来のメディア・イヴェントの発展」, ICC 特設会場)	2018.10
	研究発表等 (単独)	「オリンピックとメディア技術史」(第3回 JOA フォーラム, 於: ICC 特設会場)	2019. 3
	その他(単著)	「W 杯から見えた PV のあり方—『集まりの場』への再考を」(『民間放送』2018年7月23日号, 日本民間放送連盟) 2 頁	2018. 7
	その他(単著)	「『客観報道よりツッコミ』芸能人キャスターへの違和感はどこにある」(iRONNA, 産経デジタル) https://ironna.jp/article/10402	2018. 8
	その他(単著)	「『ちびまる子ちゃん』にあって『サザエさん』にない世界観」(iRONNA, 産経デジタル) https://ironna.jp/article/10655	2018. 9
	その他(単著)	「地上波とネットテレビの『深刻な断絶』—歴史を振り返ってみると…」(現代ビジネス, 講談社) https://gendai.ismedia.jp/articles/-/58215	2018.11
	その他(単著)	「やらせへの危機意識を鈍らせた『イッテ Q』の芸人依存体質」(iRONNA, 産経デジタル) https://ironna.jp/article/11255	2018.11
	その他(単著)	「TV の在り方議論の契機に／楽観できない普及」(『共同通信』, 共同通信社) https://www.sankeibiz.jp/business/news/181126/bsg1811260500003-n1.htm	2018.11
	その他(単著)	「箱根駅伝『完全生中継』から見えてくる日テレの功罪」(iRONNA, 産経デジタル) https://ironna.jp/article/11591	2019. 1
	その他(単著)	「テクノロジーと共に新しい場を生み出すメディアイベント」(触感コンテンツ専門誌『ふるえ』21巻, NTT 研究所) 2-3 頁	2019. 2
	その他(単著)	「アーティスト・中谷芙二子のふたつの顔。」「霧の抵抗 中谷芙二子」展評」(web 美術手帖, 美術出版社) https://bijutsutecho.com/magazine/review/19385	2019. 2

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
飯田 豊	その他(単著)	「メディアが作り出す秩序を焦点に—特定のテキストに直結しない複合的な諸実践に目を向ける〈ニック・クドリー『メディア・社会—世界—デジタルメディアと社会理論』(慶應義塾大学出版会/2018年)書評)」(『図書新聞』3388号、武久出版) 3頁	2019. 2
	その他(単著)	「現代のメディア状況を歴史から照らす3冊」(web 中公新書、中央公論新社) http://www.chuko.co.jp/shinsho/portal/112014.html	2019. 3
	その他(単著)	「テレビと『ネット炎上』—共振作用で不安や憎悪誘引」(『民間放送』2019年3月23日号、日本民間放送連盟) 2頁	2019. 3
	その他(共著)	「スマホ時代に拡張される『テレビ』カルチャー」(飯田豊・天野彬、『ウェブ電通報』、株式会社電通) https://dentsu-ho.com/articles/5943	2018. 4
	その他(共著)	「メディア表現学を考える—研究手法の現在」(渡部葉子・北野圭介・佐藤知久・飯田豊・三輪眞弘・松井茂、『情報科学芸術大学院大学紀要』10巻、情報科学芸術大学院大学) 6-38頁	2019. 3
	そ の 他 (司会・パネリスト)	「若手研究者からみたメディア研究の課題—学会との関わり方を手がかりに」(日本マス・コミュニケーション学会〈若手ワーキンググループ企画〉、於：関西大学東京センター)	2018.10
石田賀奈子	著書(分担執筆)	『MINERVA はじめて学ぶ子どもの福祉 社会的養護』(伊藤嘉余子・福田公教編著、ミネルヴァ書房) 2-21頁	2018.11
	著書(分担執筆)	『新版 よくわかる子ども家庭福祉』(山縣文治・吉田幸恵編著、ミネルヴァ書房) 94-95・104-107・112-115・126-131頁	2019. 2
	論文(共著)	「児童相談所における里親支援の実態とその支援が里親委託率へ与える影響」(野口啓示・高橋順一・島谷信幸他、『子どもの虐待とネグレクト』20巻1号、岩崎学術出版社) 85-92頁	2018. 5
	論文(共著)	「社会的養護における措置変更に関する実態調査—子どもの発達に伴う措置変更と子どもの行動上の困難さによる措置変更との比較からの考察—」(野口啓示・石田賀奈子・伊藤嘉余子、『子ども家庭福祉学』第18号、日本子ども家庭福祉学会) 81-94頁	2018.12
	研究発表等 (共同)	「里親家庭における養育実態に関する全国アンケート調査—自由記述と里親幸福度得点の分析—」(石田賀奈子・野口啓示・高橋順一他、日本子ども家庭福祉学会第19回全国大会、於：神奈川県立保健福祉大学)	2018. 6
	研究発表等 (共同)	「心理的課題のある子どもの養育プロセスについて—里親の語りの質的分析—」(千賀則史・福田公教・石田慎二他、日本子ども家庭福祉学会第19回全国大会、於：神奈川県立保健福祉大学)	2018. 6
	研究発表等 (共同)	「里親家庭における養育実態に関する全国アンケート調査2—里親の幸福度、負担感に焦点を当てて」(野口啓示・高橋順一・姜民護他、日本子ども家庭福祉学会第19回全国大会、於：神奈川県立保健福祉大学)	2018. 6
	研究発表等 (共同)	「里親養育支援の実態とその支援が里親の里親養育支援についての満足度に与える影響」(野口啓示・高橋順一・石田賀奈子他、日本社会福祉学会第66回秋季大会、於：金城学院大学)	2018. 9
	研究発表等 (共同)	「里子及び里親の状況と里子の well-being の関連性」(高橋順一・野口啓示・石田賀奈子他、日本社会福祉学会第66回秋季大会、於：金城学院大学)	2018. 9
	研究発表等 (共同)	「里親家庭における全国家計調査」(姜民護・野口啓示・高橋順一他、日本社会福祉学会第66回秋季大会、於：金城学院大学)	2018. 9
石田 智巳	論文(単著)	「体育実践にナラティブ・アプローチを読み取る—矢部英寿のバレーボール実践記録より—」(『立命館産業社会論集』54巻3号) 1-12頁	2018.12

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
市井 吉興	訳書(共著)	『サーフィン・スケートボード・パルクール：ライフスタイルスポーツの文化と政治』(ベリンダ・ウィートン著、市井吉興・松島剛史・杉浦愛監修、ナカニシヤ出版) 全321頁	2019. 3
	論文(単著)	“‘Creative Reconstruction’ and the 2020 Tokyo Olympic Games: How Does the 2020 Tokyo Olympic Games Influence Japan’s Neoliberal Social Reform?” (The International Journal of Japanese Sociology 28巻、日本社会学会) 96-109頁	2019. 3
	研究発表等 (単独)	“‘CREATIVE RECONSTRUCTION’ AND THE 2020 TOKYO OLYMPIC GAMES: How do the Olympic Games transform Japanese society into an ‘active society’?” (Leisure Studies Association <LSA> Annual Conference 2018, 於: University of Bath, U.K)	2018. 7
	研究発表等 (単独)	「日本におけるライフスタイルスポーツ研究の展望：ニュースポーツの系譜におけるライフスタイルスポーツの位置とは」(日本スポーツ社会学会第28回大会、於: 福岡大学七隈キャンパス)	2019. 3
伊藤 隆司	論文(単著)	「魂のゆくえに寄り添い続けること～「ちいちゃんのかげおくり」の最後の場面をめぐる」(『語り合う文学教育』17号、語り合う文学教育の会) 9-17頁	2019. 3
伊東 寿泰	著書(共編著)	『NTJ 新約聖書注解 ルカ福音書 1章～9章50節』(嶺重淑著、伊東寿泰・須藤伊知郎監修、日本キリスト教団出版局) 全490頁	2018. 4
	書評(単著)	「論評『R. カイザー著 前川裕訳 ヨハネ福音書入門：その象徴と孤高の思想』」(『本のひろば』734号、一般財団法人キリスト教文書センター) 8-9頁	2019. 2
上原 徳子	著書(共訳)	『恋色紅塵：中国の都市、欲望と生活』(李孝悌著、野村鮎子・和泉ひとみ・上原徳子他、東方書店) 119-187・189-220・413-440頁	2018. 7
	論文(単著)	「林語堂による英訳『鶯鶯傳』について」(『アジア遊学』218号、勉誠出版) 181-190頁	2018. 5
	論文(単著)	「林語堂による英訳『鶯鶯傳』前書きの検討」(『宮崎大学教育学部紀要 教育科学』92巻、宮崎大学教育学部) 121-129頁	2019. 3
	研究発表等 (単独)	「林語堂による英訳『鶯鶯傳』に関する諸問題」(東山の会、於: 京都女子大学)	2018. 9
	そ の 他 (司会・パネリスト)	「翁筱曼氏：晩明粵姫張喬及百花墳的經典化」(明清文化研究の現在、於: 奈良女子大学)	2018.10
瓜生 吉則	論文(単著)	「『名馬』を必要とする社会―競馬をめぐる〈夢〉の遠近法」(『賭博の記号論』、日本記号学会) 97-117頁	2018. 8
漆原 良	論文(共著)	“CSF cystatin C and diffusion tensor imaging parameters as biomarkers of upper motor neuron degeneration in amyotrophic lateral sclerosis.” (Nakane S・Fujita K・Azuma S・Urushihara R・Kamada M・Harada M・Izumi Y・Kaji R, Clin Neurol Neurosurg. 172巻) 162-168頁	2018. 7
	論文(共著)	「課外自主活動団体の高度化に向けた支援策の現状と課題」(齊藤富一・一ノ瀬和憲・漆原良・吉田満梨、『立命館高等教育研究』19号) 123-134頁	2019. 3
	研究発表等 (単独)	「学習者自身および他者による運動部位への触覚付加が運動学習に与える影響」(日本体育学会第69回大会、於: 徳島大学)	2018. 8

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
漆原 良	研究発表等 (共同)	「コーディネーショントレーニングによるドリブルスキルの改善について」(細野裕希・漆原良, 日本体育学会第69回大会, 於: 徳島大学)	2018. 8
	研究発表等 (共同)	「上腕腹側への接触が肘関節屈曲運動の学習に与える影響」(漆原良・福村真耶子・伊藤亜由美, 日本生理人類学会第78回大会, 於: 東京大学)	2018.10
江口 友朗	研究発表等 (単独)	「『競合的パラダイム論』から見た制度アプローチの展開とその理論的射程に関する一考察」(進化経済学会: 現代日本の経済制度〈全国〉部会2018年度第1回研究会, 於: 阪南大学あべのハルカスキャンパス)	2018. 7
	研究発表等 (単独)	「アジア『環境福祉』国家分析の射程: 制度アプローチ及び学際的アプローチの視点から」(進化経済学会第23回全国大会, 於: 名古屋工業大学)	2019. 3
	研究発表等 (共同)	“A Comparative Analysis of Aspects of Private and Autonomous Income Distributions among households in Asian Countries: Thailand, Cambodia, Indonesia, and South Korea” (Tomoaki EGUCHI・Sinudom ARISSARA・Yorihiko ANDO, 30th Annual Conference of the European Association for Evolutionary Political Economy, 於: University of Nice Sophia Antipolis)	2018. 9
呉 世雄	著書(共著)	「大邱地域における社会福祉法人のアイデンティティの再確立の方案」(チェ・ヒョンタック, 『大邱社会福祉法人調査研究事業報告書』) 25-51頁	2018.11
	論文(単著)	「家族介護者の在宅介護継続意思に影響を及ぼす要因 (地域のインフォーマルサポート・介護充実感・介護負担感との関連を中心に)」(『コミュニティソーシャルワーク』 21号, 日本地域福祉研究所) 54-64頁	2018. 6
	論文(共著)	“Factors Affecting Community Welfare Activities of Elderly Care Facilities” (Oh, Se-Woong・Choi, Soo-Jin・Park, Tae-Young, 『Journal of Community Social Welfare』 vol.66, Korean Society of Community Social Welfare) pp. 201-228	2018. 6
	研究発表等 (単独)	「包容的福祉時代, 地方政府の雇用政策と福祉経営 (指定討論)」(韓国福祉経営学会2018年秋季学術大会, 於: ソウル市グロ区庁, 韓国)	2018.10
	研究発表等 (単独)	「韓国における社会的経済組織の現状と課題」(第5回ソーシャルファームジャパン・サミット in 大阪, 於: シティプラザ大阪)	2019. 2
	研究発表等 (共同)	「農福連携の現状と課題～栃木県の事例を中心に～」(山根健治・呉世雄・原田淳・上岡啓之, 人間・植物関係学会2018年大会, 於: 西九州大学佐賀キャンパス)	2018. 6
	そ の 他 (司会・パネリスト等)	「日韓における地域福祉計画の策定方法と評価」(第32回日本地域福祉学会日韓学術交流企画, 於: 静岡福祉大学)	2018. 6
大谷いづみ	論文(単著)	「現代医学における『死の選択』が問いかけるもの」(『大法輪』 85巻10号, 大法輪閣) 135-142頁	2018.10
	論文(共著)	「ハンドル形電動車いす利用者をめぐる実態と法制度—日本・ドイツ・韓国を中心に」(川端美季, 『立命館人間科学研究』 38号, 立命館人間科学研究所) 91-100頁	2019. 1
	研究発表等 (単独)	「『問い書き対話するいとなみ』と『障害を持つ女性』という経験」(2018年度 日本医学哲学・倫理学会 公開講座「障害のなかで生きること—『障害があることは不幸』なのか」, 於: TKP ガーデンシティ京都)	2019. 2
	研究発表等 (単独)	「安楽死・尊厳死論の系譜と障害者殺傷事件」(韓国障害学会定例会, 於: 京畿大学ソウルキャンパス, 韓国)	2019. 3
	そ の 他 (司会・パネリスト等)	「『死を選ぶ権利』について考えておきたいこと」(立命館大学生存学研究センター公開シンポジウム「安楽死のリアル—一つではない『良い死』」, 於: 立命館大学朱雀キャンパス)	2019. 2

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
大谷 哲弘	著書(共著)	『いじめ問題解決ハンドブック―教師とカウンセラーの実践を支える学校臨床心理学の発想―』(山本奨・大谷哲弘・小関俊祐、金子書房) 64-89頁	2018. 9
	論文(共著)	「東日本大震災被災地の高校生に対する短期マインドフルネスの効果」(土屋さとみ・大谷哲弘・伊藤大輔・小関俊祐、『ストレスマネジメント研究』14巻2号、日本ストレスマネジメント学会) 11-21頁	2018. 9
	論文(共著)	「ほめられたと思うにくだい子は どのように支援すると思われたいのか？」(金野浩二・山本奨・大谷哲弘、『岩手大学大学院教育学研究科研究年報』3巻、岩手大学大学院教育学研究科) 147-155頁	2019. 3
	研究発表等 (単独)	「就労予定高校3年生の就職先に対する自己評価を形成するプロセス」(M-GTA研究会第84回定例研究会発表、於：東京大学駒場キャンパス)	2018.10
	研究発表等 (共同)	「東日本大震災被災地の高校生に対する集団マインドフルネスが抑うつに及ぼす効果」(土屋さとみ・大谷哲弘・伊藤大輔・小関俊祐、日本健康心理学会大会、於：京都橘大学)	2018. 7
	研究発表等 (共同)	「被災地の高校生に対する集団マインドフルネス・ヨーガ介入の効果」(土屋さとみ・伊藤大輔・大谷哲弘・小関俊祐、日本認知・行動療法学会第44回大会、於：明治学院大学)	2018.10
	研究発表等 (共同)	「就職先に対する自己評価を形成するプロセス―高校生を対象とした就職内定後のインタビュー調査から―」(大谷哲弘・竹下浩・山本奨、日本キャリア教育学会第40回研究大会、於：早稲田大学)	2018.12
岡田 桂	著書(分担執筆)	『よくわかるスポーツとジェンダー』(飯田貴子・熊安貴美江・來田享子編著、ミネルヴァ書房) 10-11・134-135・162-163頁	2018. 5
	著書(分担執筆)	『よくわかるイギリス近現代史』(君塚直隆編著、ミネルヴァ書房) 78-81・86-87・100-103頁	2018. 6
	研究発表等 (単独)	“The Racial Zepresentation of ‘Japaneseness’: From Race Improvement to Racial Purism” (International Workshop, Japanese Body Culture and Sport in Visual and Textual Representations, 於：Ghent University, Belgium)	2019. 2
岡本 尚子	著書(共著)	『算数科教育』(岡本尚子・二澤善紀・月岡卓也ほか編著、ミネルヴァ書房) 1-12・13-22・23-35・161-173頁	2018.10
	論文(共著)	“Characteristics of Eye Movement in the Instruction Process of Teachers and the Problem-Solving Process of Students: The Case of Figure Problems” (Naoko Okamoto・Yasufumi Kuroda, 『立命館産業社会論集』54巻4号) 39-50頁	2019. 3
	研究発表等 (単独)	「生理学的アプローチによる学習・教育研究―科学的根拠に基づく教育の可能性―」(日本発達心理学会第30回大会、於：早稲田大学戸山キャンパス)	2019. 3
	研究発表等 (共同)	「自然体験活動における危険予測に関する指導者の視線移動特徴」(岡本尚子・黒田恭史・西村綾夏、第36回日本生理心理学会大会、於：福岡県立大学)	2018. 5
	研究発表等 (共同)	「系列順序情報保持に関わる脳活動の計測」(肥後克己・岡本尚子・芋阪満里子、第36回日本生理心理学会大会、於：福岡県立大学)	2018. 5
	研究発表等 (共同)	「学融的な人間科学の構築と科学的根拠に基づく対人援助の再編成―人間性(人格性)成長の一貫性を前提としたパーソナリティの探究へ向けて―」(矢藤優子・サトウタツヤ・岡本尚子他、第27回日本パーソナリティ心理学会、於：立命館大学大坂いばらきキャンパス)	2018. 8

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
岡本 尚子	研究発表等 (共同)	「学習者同士が教え学び合う過程における両者の脳活動の特徴—大学生を対象としたタングラム課題実験を通して—」(岡本尚子・黒田恭史, 教育システム情報学会第43回全国大会, 於: 北星学院大学)	2018. 9
	研究発表等 (共同)	「プランニングと系列順序記憶の関連についての検討」(肥後克己・岡本尚子, 第82回日本心理学会, 於: 仙台国際センター)	2018. 9
	研究発表等 (共同)	「展開図課題における視線移動特徴」(岡本尚子・黒田恭史, 日本教育工学会第34回全国大会, 於: 東北大学川内キャンパス)	2018. 9
	研究発表等 (共同)	“Development of Japanese eye typing system” (Isao Motoyama・T. Uda・Madoka Yamazaki・Naoko Okamoto・Yasufumi Kuroda・Hideo Eda, Society for Neuroscience 2018, 於: Sun Diego, CA, U.S.A)	2018.11
	研究発表等 (共同)	“Development of mutual learning system for advanced educational research-NIRS and GSR measurement during tangram puzzle” (Madoka Yamazaki・Hideo Eda・Naoko Okamoto・Yasufumi Kuroda, Society for Neuroscience 2018, 於: Sun Diego, CA, U.S.A)	2018.11
	研究発表等 (共同)	「ICTを用いた教材コンテンツ制作における現職教員教育としての効果」(黒田恭史・岡本尚子, 日本教育実践学会 第21回研究会, 於: 岡山理科大学)	2018.12
	研究発表等 (共同)	“Measuring Hazard Prediction Skill with Eye Movements” (Naoko Okamoto・Yasufumi Kuroda, 6th International Conference on Trends in Health and Medicine, 於: Paris, France)	2018.12
	研究発表等 (共同)	「脳活動計測の教育分野への応用例—学習者のやる気を脳活動で評価できるか?—」(山崎まどか・江田英雄・岡本尚子・黒田恭史, 第35回日本脳電磁図トポグラフィ研究会, 於: 北海道大学)	2019. 2
	研究発表等 (共同)	「立体図形問題遂行時における学習者の思考過程の分析—視線移動計測を通して—」(木下卓海・岡本尚子・黒田恭史, 教育システム情報学会2018年度学生研究発表会, 於: 関西学院大学大阪梅田キャンパス)	2019. 2
	研究発表等 (共同)	「立方体の切断課題における視線移動の特徴—視線移動計測実験の結果を通して—」(青木駿介・岡本尚子・黒田恭史, 数学教育学会2019年度春季年会大学院生等発表会, 於: 東京工業大学)	2019. 3
小澤 亘	論文(共著)	「外国にルーツを持つ児童の読み困難度の測定—視線追尾検査の試み」(楠敬太・小澤亘・金森裕治, 『立命館人間科学研究』38号, 立命館大学人間科学研究所) 59-72頁	2019. 1
	研究発表等 (共同)	「外国にルーツを持つ児童の読み困難度に関する基礎的研究—横書き・縦書きテキストの差に注目して—」(楠敬太・小澤亘・金森裕治, 日本デジタル教科書学会, 於: 富山大学)	2018. 8
角田 将士	論文(単著)	“What is the educational role of social studies classes?” (Korea Association of Social Education “Re-conceptualization of Democratic Citizenship Education: Justice, communication, Peace”) 249-309頁	2018. 8
	論文(単著)	「主体的・対話的で深い学びの視点から 地理・歴史・公民 プラスαのポイントはこちら」『【歴史】三つの内容を意識した『深い学び』をめざして』(『社会科教育』714巻, 明治図書) 26-29頁	2018.10
	論文(単著)	「『学ぶ意義』を意識した魅力的な授業づくりに向けて」(『研究集録』55号, 大分県高等学校教育研究会地理歴史科公民科部会) 33-36頁	2019. 3

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
角田 将士	研究発表等 (単独)	「社会科授業に期待される教育的役割とは何か—日本における中等段階の実践から見えるもの—」(韓国社会科教育学会2018年度学術大会、於：晋州教育大学校)	2018.8
	研究発表等 (単独)	「社会科授業を通して子どもたちは何ができるようになればいいか—三つの内容を意識した授業・評価問題づくりに向けて—」(社会科学習の評価改善研究会、於：新大阪丸ビル研修室)	2018.8
	研究発表等 (単独)	「社会系教科授業における『三つの内容』を意識した学校現場への働きかけ—『研究授業』を通じたこれまでの関わりを振り返って—」(社会認識教育学会2018年度研究会、於：新大阪丸ビル研修室)	2018.10
	研究発表等 (単独)	「社会に開かれた社会科授業の実践的課題—地域社会の課題に取り組む中学校公民実践から見えるもの—」(社会科学習の評価改善研究会、於：新大阪丸ビル研修室)	2018.11
	研究発表等 (単独)	「社会に開かれた社会科授業の実現に向けて—地域社会の課題を取り上げた優れた実践に学ぶ—」(社会科学習の評価改善研究会、於：新大阪丸ビル研修室)	2019.1
	研究発表等 (単独)	「社会科授業における『見方・考え方』の成長とその評価—活動形式主義に陥らないために—」(社会科学習の評価改善研究会、於：新大阪丸ビル研修室)	2019.3
	その他(単著)	「人物で読み解く歴史授業『戦争・戦乱(と平和)』をどう教えるか(斎藤隆夫 現代社会とのつながりを意識した授業づくりを)」(『社会科教育』710巻、明治図書)24-25頁	2018.6
景井 充	著書(共著)	『“教育から学習への転換”のその先へ Unlearningを焦点に大学教育を構想する』(景井充・杉野幹人・中村正、文理閣)全172頁	2019.3
柏木 智子	著書(分担執筆)	「ソーシャル・キャピタルにかかる研究動向と今後の課題」(日本教育経営学会編『講座 現代的教育経営3 教育経営学の研究動向』、学文社)119-130頁	2018.6
	著書(分担執筆)	「学校改善とチームとしての学校運営」(八尾坂修編著、『新時代の教職概論』、ジダイ社)164-179頁	2018.8
	著書(分担執筆)	「地域・保護者との連携と学校経営改革」(浜田博文編著、『MINERVA はじめて学ぶ教職 学校経営』、ミネルヴァ書房)141-152頁	2019.2
	著書(分担執筆)	「『子ども食堂』を通じて醸成されるつながり—困難を抱える子どもにとっての意義と課題」(露口健司編著、『ソーシャル・キャピタルで解く教育問題』、ジダイ社)110-129頁	2019.2
	著書(分担執筆)	「小・中学校運営体制の改革」(藤原文雄編著、『「学校における働き方改革」の先進事例と改革モデルの提案』、学事出版)30-37頁	2019.2
	論文(単著)	「子どもの貧困問題に取り組むケアする教員の葛藤と対処様式—教職アイデンティティ確保のための学校経営戦略」(『学校経営研究』43巻、大塚学校経営研究会)40-54頁	2018.4
	論文(単著)	「子供の貧困に学校はどう向き合うべきか」(『中学校』777号、全日本中学校長会)12-15頁	2018.6
	論文(共著)	「学校・家庭・地域間ソーシャル・キャピタルと保護者の主観的幸福感」(竹森香以・柏木智子、『東京大学大学院教育学研究科教育行政学論叢』第38号、東京大学大学院教育学研究科学校開発政策コース)85-94頁	2018.10

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
柏木 智子	論文(共著)	「貧困問題を抱える地域における『町づくり学習』の可能性—スティグマへの子どもの反応と抵抗としての学習活動の意義—」(山田文乃・柏木智子, 『学校改善研究紀要』1巻, 日本学校改善学会) 72-84頁	2019. 1
加藤 潤三	著書(分担執筆)	「島嶼地域の自律に向けた大学の役割」(本村真・加藤潤三, 池上大祐他編, 『島嶼地域科学という挑戦』, ボーダーインク) 27-38頁	2019. 2
加藤 雅俊	論文(単著)	「海底海洋資源の調査・開発を進める上で必要となる社会的技法とは—政治学の立場から—」(『第27回海洋工学シンポジウム予稿集』, 日本船舶海洋工学会・日本海洋工学会) 1-6頁	2018. 8
	論文(単著)	「諫早湾干拓紛争からみる紛争処理システムとしての司法制度の意義と限界—政治学の立場から—」(『法学セミナー』766号, 日本評論社) 44-49頁	2018.10
	論文(単著)	「緊縮国家の政治的帰結—オーストラリアを事例として—」(『日本政治学会研究大会報告ペーパー』, 日本政治学会) 1-17頁	2018.10
	論文(単著)	「開発と環境保全をめぐる認識の変化とその社会的含意」(次世代海洋資源調査技術・社会科学レファレンス Vol.2『海底鉱物資源調査・開発関連産業の海外進出に向けて—太平洋諸島を中心に—』, 国立研究開発法人海洋研究開発機構) 9-14頁	2018.11
	論文(単著)	“Welfare State Theory and the Japanese Model: Features and Dynamics” (Working Paper on “Japanese Welfare Model: Continuities and Changes during “the Lost Two Decades”, East Asian Social Policy) 1-15頁	2019. 2
	論文(単著)	「『東アジア福祉国家論』から『東アジア発の福祉国家論』へ—福祉国家論の理論的刷新に向けて—」(『進化経済学会名古屋大会報告ペーパー』, 進化経済学会) 1-21頁	2019. 3
	論文(単著)	“Social Problems and Welfare State Transformations in Japan: from the Point of Comparative Politics” (International Symposium on “Comparative Approach to Socio-Economic Transition and Trends of Political Reintegration in East Asian Countries under Globalization” 2巻) 76-97頁	2019. 3
	書評(単著)	「中谷義和『国家論序説』(御茶の水書房, 2017年)」(『立命館大学人文科学研究紀要』116号, 立命館大学人文科学研究所) 157-166頁	2018. 7
	書評(単著)	「藤田菜々子『福祉世界』(中央公論新社, 2017年)」(『横浜国際社会科学研究所』23巻2号, 横浜国立大学国際社会科学学会) 97-104頁	2018.10
	書評(単著)	「田中拓道『福祉政治史：格差に抗するデモクラシー』(勁草書房, 2017年)」(『横浜法学』27巻3号, 横浜法学会) 557-558頁	2019. 3
	研究発表等 (単独)	「紛争処理システムとしての裁判制度の意義と限界—政治学の視点から—」(日本法社会学会学術大会「ミニシンポジウム①『諫早湾干拓紛争』の諸問題—法学と政治学からの分析」, 於：鹿児島大学)	2018. 5
	研究発表等 (単独)	「海底海洋資源の調査・開発を進める上で必要となる社会的技法とは—政治学の立場から—」(第27回海洋工学シンポジウム, 於：日本大学駿河台キャンパス)	2018. 8
	研究発表等 (単独)	「『緊縮国家』の政治的帰結—オーストラリアを事例として—」(日本政治学会研究大会, 於：関西大学千里山キャンパス)	2018.10
	研究発表等 (単独)	“Welfare State Theory and the Japanese Model: Features and Dynamics” (Workshop on “Japanese Welfare Model: Continuities and Changes during “the Lost Two Decades”, 於：立命館大学衣笠キャンパス)	2019. 2

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
加藤 雅俊	研究発表等 (単独)	“Limits of the Judicial System as a Form of Conflict Resolution in Modern Society: the case of social conflict in Isahaya City” (International Postgraduate and Academic Conference on “East Asia in Transition: Local Challenges under the Globalized World”, 於：立命館大学衣笠キャンパス)	2019. 2
	研究発表等 (単独)	『『東アジア福祉国家論』から『東アジア発の福祉国家論』へー比較福祉国家論の理論的刷新に向けてー』(進化経済学会名古屋大会、於：名古屋工業大学)	2019. 3
	研究発表等 (単独)	“Commentator on ‘Politics and Diplomacy’” (International Symposium on “Comparative Approach to Socio-Economic Transition and Trends of Political Reintegration in East Asian Countries under Globalization”, 於：立命館大学衣笠キャンパス)	2019. 3
	研究発表等 (単独)	“Social Problems and Welfare State Transformations in Japan: from the Point of Comparative Politics” (International Symposium on “Comparative Approach to Socio-Economic Transition and Trends of Political Reintegration in East Asian Countries under Globalization”, 於：立命館大学衣笠キャンパス)	2019. 3
	研究発表等 (単独)	「批判的実在論における『戦略・関係論アプローチ』の位置と課題ーボブ・ジェソップの『国家』などを手がかりとしてー」(批判的実在論研究会、於：立命館大学衣笠キャンパス)	2019. 3
	研究発表等 (共同)	“Japanese Welfare Model in Transition: Continuity and Change in the Corporate Centered Conservative Welfare State” (Ryozo MATUSDA・Masato SHIZUME・Masatoshi KATO, International Postgraduate and Academic Conference on “East Asia in Transition: Local Challenges under the Globalized World”, 於：立命館大学衣笠キャンパス)	2019. 2
	そ の 他 (司会・パネリスト)	合評会「藤田菜々子『福祉世界』(中公選書、2017年)」討論者(経済学史学会関西西部会第174回例会、於：大阪工業大学梅田キャンパス)	2018. 7
金澤 悠介	論文(単著)	「国立公園を有する自治体の特徴：統計指標を用いた検討」(『国立歴史民俗博物館研究報告』215巻、国立歴史民俗博物館) 53-68頁	2019. 2
	研究発表等 (単独)	「若者にとっての中流、中高年にとっての中流：世代で異なる階層観」(第1回人間科学フロンティア「最新データからみる階層と社会意識ー共生社会の実現に向けてー」、於：大阪大学)	2018. 9
	研究発表等 (共同)	“How can we articulate Japanese Rising Middle Class?” (Tutomu Hashimoto・Yusuke Kanazawa・Kyoko Tominaga, The Inaugural Congress of East Asian Sociological Association, 於：中央大学駿河台記念館)	2019. 3
金山 千広	研究発表等 (共同)	“Study on information sharing among elementary school teachers who are in charge of inclusive physical education (IPE): Comparing teaching types.” (Taiga. Hagiwara・Chihiro Kanayama, 15TH ASAPE SYMPOSIUM Bridging Communities Through Adapted Physical Activity, 於：University of Malaya, Kuala Lumpur, Malaysia)	2018. 7
	研究発表等 (共同)	「ブラインドマラソンの伴走者を対象としたソーシャルサポート：互恵性からみた現状と課題」(日野未奈子、日本体育学会第69回大会、於：徳島大学)	2018. 8
	研究発表等 (共同)	「小学校のインクルーシブ体育における指導体制による授業成果の特徴」(萩原大河、日本体育学会第69回大会、於：徳島大学(筆頭著者専門領域奨励賞))	2018. 8

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
金山 千広	研究発表等 (共同)	「パラ水泳の直接観戦と障がい者スポーツに対する意識変容との関連について：国際大会派遣レースに参加する10代の選手を対象に」(瀬川海, 第28回日本障がい者スポーツ学会, 於：金沢商工会議所)	2019. 2
	研究発表等 (共同)	「10代水泳選手の障害理解に対する意識変容：パラ水泳の直接観戦を通して」(瀬川海, 京都滋賀体育学会第148回大会, 於：京都キャンパスプラザ(筆頭著者若手研究奨励賞))	2019. 3
	研究発表等 (共同・筆頭)	“Classification of small-scale sport facilities for people with disabilities in Japan: From the perspective of cooperation with the community.” (Chihiro Kanayama・Yu Kodama・Yumiko Miki., 15TH ASAPE SYMPOSIUM Bridging Communities Through Adapted Physical Activity, 於：University of Malaya, Kuala Lumpur, Malaysia)	2018. 7
	その他(単著)	「障害者の公共スポーツ施設利用に関する現状と課題：障害者優先施設と都市部の大規模施設の比較から」(23回日本アダプテッド体育・スポーツ学会, 於：西九州大学「2017年度公認障がい者スポーツ指導員実態調査の結果について：第1回指導員の属性および活動に関する概要」(『No Limit』Vol.75巻, 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会)) 25-26頁	2018.12
	その他(単著)	「スポーツで輝く未来を笑顔に！障害者と健常者がともに実践できる生涯スポーツを目指して」(『みんなのスポーツ』41巻1号, 日本体育社) 18-19頁	2018. 8
	その他(単著)	巻頭言「J-stage での公開に際して」(アダプテッド体育・スポーツ学研究2018年4巻1号, 日本体育学会アダプテッド・スポーツ専門領域) 1頁	2019. 1
	その他(単著)	「ブラインドマラソンの伴走者を対象としたソーシャルサポート：互惠性からみた現状と課題」(アダプテッド体育・スポーツ学研究2018年4巻1号, 日本体育学会アダプテッド・スポーツ専門領域) 44-47頁	2019. 3
	その他(共著)	「障害者優先スポーツ施設における役割モデルの特徴：施設の類型化と『エクスポート型』施設へのヒアリング調査から」(金山千広・児玉友, 『日本障がい者体育・スポーツ研究会2018研究紀要』42巻, 日本障がい者体育・スポーツ研究会)	2019. 3
	その他(共著)	平成30年度国子補助事業「公認障がい者スポーツ指導員実態調査」報告書, 日本障がい者スポーツ協会, 全95頁	2019. 3
金子 史弥	論文(単著)	「2012年ロンドンオリンピック・パラリンピックの〈スポーツ的レガシー〉とは？—評価報告書の検討を中心に」(『広島経済大学研究論集』41巻3号, 広島経済大学経済学会) 3-22頁	2018.12
	研究発表等 (単独)	“Keep Calm and Go for Gold?: Impacts of Hosting the London 2012 Olympic Games on the Governance and High-Performance Strategy of National Governing Bodies of Sport in the United Kingdom” (2018 World Congress of Sociology of Sport, 於：University of Lausanne, Switzerland)	2018. 6
	研究発表等 (単独)	「オリンピック・パラリンピック大会が開催都市にもたらす〈スポーツ的レガシー〉に関する研究—2012年ロンドン大会の事例：地方自治体職員の視点に着目して」(日本スポーツ社会学会第28回学会大会, 於：福岡大学)	2019. 3
唐鎌 直義	論文(単著)	「貧困を拡大する社会保障抑制政策」(『中小商工業研究』137号, 中小商工業全国交流・研究集会実行委員会) 50-59頁	2018.10
川口 晋一	論文(共著)	「『東京オリンピック・パラリンピックに関する研究』プロジェクトの中間報告」(川口晋一・山下高行, 『立命館産業社会論集』54巻1号) 11-28頁	2018. 6

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
権 学俊	論文(共著)	「現代日本における排外主義と歴史修正主義—排外主義の拡散過程とネット・サブカルチャー—」(権学俊・張惠英,『日本文化研究』68巻,東アジア日本学会) 5-43頁	2018.10
	研究発表等 (単独)	「日本社会における『戦跡』による街づくり」(地域創生主義「韓・日・中国国際学術シンポジウム」,於:堤川市立図書館,韓国)	2018.10
	研究発表等 (単独)	「朝鮮人特攻隊員という『戦跡』」(世明大学人文社会学講座・特別講演,於:世明大学校,韓国)	2018.10
	研究発表等 (単独)	「日本の排外主義と歴史修正主義」(韓国研究財団研究会,於:世明大学校,韓国)	2019.3
黒田 学	論文(単独)	「発達保障の源流:『自立の時代』と自立論の新展開」(加藤直樹著)への解説」(『人間発達研究所紀要』31号,人間発達研究所) 97-101頁	2018.8
	書評(単著)	「書評 清水貞夫著『強制断種・不妊,障害者の「安楽殺」と優生思想』」(『人間発達研究所通信』34巻4号,人間発達研究所) 12-13頁	2019.3
	その他(単著)	「障害のある子どもたちの放課後保障と放課後等デイサービス」(『子ども白書2018』,本の泉社) 124-125頁	2018.8
	その他(単著)	「放課後等デイサービスの発展のために—放課後保障の制度化を再考する(連載 子どもたちの放課後のいま・最終回)」(『みんなのねがい』635号,全国障害者問題研究会出版部) 10-11頁	2019.3
	そ の 他 (司会・パネリスト等)	「障害者権利条約とSNE,国際協力による途上国支援—カンボジアとガーナを事例にして—(ラウンドテーブル6)」(日本特別ニーズ教育学会第24回研究大会,於:大阪体育大学)	2018.11
小泉 秀昭	著書(共編著)	『現代マーケティング論 第2版』(武井寿・小泉秀昭・広瀬盛一他編著,実業出版) 59-67・128-138頁	2018.4
坂田 謙司	論文(単著)	「限定された空間とメディアの社会史研究に向けて—刑務所と『新聞』『ラジオ』はどのような関係を結んできたのか—」(『立命館産業社会論集』54巻4号) 107-121頁	2019.3
崎山 治男	論文(単著)	「語りへの包摂・語りへの排除:ナラティブと心理主義化」(『立命館産業社会論集』54巻1号) 77-89頁	2018.6
	研究発表等 (単独)	“Mobilization through Emotional labor: How to Do ‘Good’ Emotional Labor” (International Sociological Association 第15回大会,於: Metro Toronto Convention Center, Toronto, Canada)	2018.7
櫻井 純理	著書(分担執筆)	『貧困と生活困窮者支援—ソーシャルワークの新展開』(埋橋孝文他編,法律文化社) 128-132頁	2018.9
	研究発表等 (単独)	「就労支援政策の意義と課題—半『就労』の質をどう担保するのか?」(社会政策学会第137回大会,於:北海学園大学豊平キャンパス)	2018.9
	研究発表等 (共同)	「大阪府における地域就労支援事業の展開過程:自治体間格差の分析」(長松奈美江・仲修平・櫻井純理・阿部真大,社会政策学会第136回大会,於:埼玉大学)	2018.5
	その他(単著)	「就労支援と地域社会」(『地域開発』627号,日本地域開発センター) 32-35頁	2018.11
櫻谷眞理子	研究発表等 (単独)	「発達障害が疑われる子どもの特徴と保育の課題」(日本保育学会第71回大会,於:宮城学院女子大学)	2018.5

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
笹野恵理子	著書(編著)	『「初等音楽科教育」MINERVA はじめて学ぶ教科教育第7巻』(吉田武男監修、笹野恵理子編著、ミネルヴァ書房) 全248頁	2018. 4
	著書(分担執筆)	『中学校・高等学校教員養成課程用 最新中等科音楽教育法』(中等科音楽教育研究会著、音楽之友社) 26-30頁	2019. 3
	論文(単著)	「学校音楽教育におけるカリキュラム研究の課題と展望—『経験されたカリキュラム』への視角—」(『関西楽理研究』35巻、関西楽理研究会) 113-132頁	2018.11
	論文(共著)	“Inclusive Music Education Teaching Methods for Elementary School: The Perspective of ‘Universal Design for Learning’” (Eriko SASANO・Michiko KAN・Yukari YAMAZAKI, HMUE Journal of Sciences 63巻9 AB号, Hanoi University) 134-140頁	2018. 9
	研究発表等 (単独)	「学校音楽を『学ぶ』ことと『教える』ことの諸相(5) —『経験されたカリキュラム』の視角から—」(日本音楽教育学会第49回大会、於：岡山大学)	2018.10
	研究発表等 (単独)	「個人誌としてのカリキュラム—学校音楽のカリキュラム経験—」(第3回近現代教育史研究会)	2018.11
	研究発表等 (共同)	“A Study of Inclusive Music Education in Elementary School: The Perspective of ‘Universal Design for Learning’ in School Music Curriculum” (Eriko SASANO・Michiko KAN・Yukari YAMAZAKI, International Scientific Symposium on “Development The Support Service System on Inclusive Education for Persons with Disabilities: International Experiences and Lessons Learnt for Viet Nam”)	2018. 9
佐藤 詩恵	その他(共著)	“A Study of Inclusive Music Education in Elementary School: The Perspective of ‘Universal Design for Learning’ in School Music Curriculum” (Eriko SASANO・Michiko KAN・Yukari YAMAZAKI, Development The Support Service System on Inclusive Education for Persons with Disabilities: International Experiences and Lessons Learnt for Viet Nam) 29-32頁	2018. 9
	研究発表等 (単独)	“Agreement Variability in Existential Constructions: Integrating Quantitative and Qualitative Analyses” (The Linguistic Society of Hong Kong Annual Research Forum, 於：City University of Hong Kong, Hong Kong)	2018.12
佐藤 春吉	論文(単著)	「批判的実在論における実践的認識論と『認識論的相対主義』の意味」(『経済系：関東学院大学』276号、関東学院大学経済研究所) 1-20頁	2019. 3
鎮目 真人	著書(分担執筆)	『よくわかる福祉行政と福祉計画』(永田祐・岡田忠克編、ミネルヴァ書房) 30-35・40-45頁	2018. 5
下條 正純	論文(単著)	「メディアミックス時代の日本語非母語読者—ライトノベル愛読者の作品理解—」(『読書科学』60巻3号、日本読書学会) 187-198頁	2018. 9
	研究発表等 (単独)	「ライトノベルの発話表現とキャラクター描写—日本語を母語としない読者の理解—」(第12回国際日本語教育及び日本研究シンポジウム、於：香港理工大学、香港)	2018.12
杉浦 愛	訳書(共著)	『サーフィン・スケートボード・バスケール：ライフスタイルスポーツの文化と政治』(ベリンダ・ウィートン著、市井吉興・松島剛史・杉浦愛監修、ナカニシヤ出版) 全321頁	2019. 3

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
杉本通百則	研究発表等 (単独)	“The Status quo of Digitization and Implementation of IoT / Industrie 4.0 in Japan” (Deutsch-Japanisches Symposium Industrie 4.0, 於: Technische Hochschule Mittelhessen)	2018. 9
	研究発表等 (単独)	「イギリスにおけるアスベスト管理規制の制度と手法」(第7回石綿問題総合対策研究会, 於: 東京工業大学)	2019. 2
住家 正芳	著書(分担執筆)	『隠される宗教, 顕れる宗教』(西村明編, 岩波書店) 84-99頁	2018.10
住田 翔子	翻訳(単著)	コルドゥラ・ピショッフ著「ドレスデンの『日本宮殿』—18世紀ヨーロッパにおける東洋への熱狂」(『立命館言語文化研究』30巻3号) 149-163頁	2019. 2
	翻訳(単著)	ロベルト・ファルネ著「都市, 広場, 遊び」(『立命館言語文化研究』30巻4号) 119-131頁	2019. 3
	その他(単著)	「(展評) ヤズディの祈り—林典子写真展」(『大阪日日新聞』2018年6月12日付)	2018. 6
高橋 顕也	翻訳(単著)	クレメンス・クロネベルク著「第二次世界大戦におけるユダヤ人の救出(2)」(『社会システム研究』22巻, 京都大学大学院人間・環境学研究所/京都大学総合人間学部社会システム研究刊行会) 275-310頁	2019. 3
竹内 謙彰	著書(共著)	『保育・教育に生かす Origami の認知心理学』(丸山真名美編著, 梶田正巳・杉村伸一郎・竹内謙彰・山中和人著, 金子書房) 77-84頁	2018.11
	論文(単著)	「学童期に獲得される計画性とはいかなる能力か?—心理測定的知能と実践的能力の二つの視点から—」(『立命館産業社会論集』54巻2号) 75-84頁	2018. 9
	研究発表等 (共同)	「思春期・青年期の自閉症スペクトラム児の療育プログラムの開発(その4)—中学生: 参加児の課題に配慮したスタッフの関わり方とプログラム作成の工夫—」(野口有里恵・福田瑞穂・井狩美紀・松元佑・荒木穂積・竹内謙彰, 日本特殊教育学会第56回大会, 於: 大阪国際会議場)	2018. 9
	研究発表等 (共同)	「思春期・青年期の自閉症スペクトラム児の療育プログラムの開発(その5)—中学生・高校生: 参加児の自主性と協同性を育むための場と遊びの工夫—」(堀内悠・川島英輝・神部希・松元佑・荒木穂積・竹内謙彰, 日本特殊教育学会第56回大会, 於: 大阪国際会議場)	2018. 9
	研究発表等 (共同)	「自閉症スペクトラム児の多様性と自主性を尊重した療育プログラムの開発(13)—幼児・小学校低学年: 参加児の自己表現と他者意識を繋ぐための遊びの工夫—」(近藤優佳・何婉琪・北川理沙・富井奈葉実・松元佑・荒木美知子・荒木穂積・竹内謙彰, 日本特殊教育学会第56回大会, 於: 大阪国際会議場)	2018. 9
	研究発表等 (共同)	「自閉症スペクトラム児の多様性と自主性を尊重した療育プログラムの開発(14)—小学生: グループ分けにおけるスタッフの関わり方とプログラム作成の工夫—」(鈴木航平・三宅結佳・山田翔大・松元佑・荒木穂積・竹内謙彰, 日本特殊教育学会第56回大会, 於: 大阪国際会議場)	2018. 9
武岡 暢	研究発表等 (単独)	“Micro Politics of Night Time Economy: A Case of Sex Work in Tokyo” (2018 SNU-UT JOINT SOCIOLOGICAL FORUM, 於: Seoul National University, South Korea)	2018.11
	研究発表等 (単独)	“Socioeconomic Relations in a Red Light District of Tokyo 2008-2013” (SÉMINAIRE SCIENCES SOCIALES DU JAPON CONTEMPORAIN, 於: Université Paris Diderot, France)	2019. 2

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
武田 淳	研究発表等 (単独)	“Inbound mobility matters: Linguistic landscape and bilingual education in Niseko, Hokkaido” (Anthropology of Japan in Japan Fall Meeting 2018: Displacements and potentials, 於 : Nanzan University, Nagoya)	2018.12
竹濱 朝美	論文(共著)	“High Penetration of Variable Renewable Energies and Supply-Demand Balance in the Western Japan Grid: Pumped-Storage Systems and Interzone Transmission” (Asami TAKEHAMA・Manabu UTAGAWA, Proceeding for Grand Renewable Energy 2018, Area X. Energy Network. Yokohama, 21 June 2018 21巻1号) Area X_O_En_1_7_pp.1-4	2018. 6
	論文(共著)	“High Penetration of Photovoltaic Energy and Supply-Demand Balance in the Western Japan Grid, with Utilizing Interzone Transmission and Demand Response” (Asami TAKEHAMA・Manabu UTAGAWA, 8th International Workshop on Integration of Solar Power into Power Systems, 16th Oct. 2018, conference full paper, 8巻) pp.3A_1_S18.274	2018.10
	論文(共著)	「西日本における2030年の風力／太陽光発電導入と電力需給バランス、地域間送電と柔軟な需給運用の効果」(竹濱朝美・歌川学・斎藤哲夫、『第40回、風力エネルギー利用シンポジウム発表原稿集』40巻、日本風力エネルギー学会) 219-222頁	2018.12
田部 絢子	著書(共著)	『発達障害等の子どもの食の困難と発達支援』(高橋智, 風間書房) 全347頁	2019. 2
	論文(単著)	「発達障害児・者の『食の困難』の実態と支援の課題—当事者調査から探る—」(『教育と医学』第66巻4号, 慶應義塾大学出版会) 76-86頁	2018. 4
	論文(共著)	「デンマークの重度障害特別学校の実践—北欧における子ども・若者の特別ケアの動向⑪—」(高橋智・田部絢子, 『内外教育』第6656号, 時事通信社) 12-15頁	2018. 4
	論文(共著)	「エストニアの学習障害児特別学校の取り組み—北欧における子ども・若者の特別ケアの動向⑫—」(高橋智・田部絢子・柴田真緒, 『内外教育』第6658号, 時事通信社) 10-13頁	2018. 4
	論文(共著)	「デンマークにおける障害者の生涯学習—北欧における子ども・若者の特別ケアの動向⑬—」(高橋智・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋, 『内外教育』第6661号, 時事通信社) 12-15頁	2018. 4
	論文(共著)	「アイスランド障害者の生涯・大学教育—北欧における子ども・若者の特別ケアの動向⑭—」(高橋智・田部絢子・石川衣紀, 『内外教育』第6663号, 時事通信社) 14-17頁	2018. 5
	論文(共著)	「スウェーデンの子ども病院と院内教育—北欧における子ども・若者の特別ケアの動向⑮—」(高橋智・田部絢子・石川衣紀, 『内外教育』第6664号, 時事通信社) 10-15頁	2018. 5
	論文(共著)	「フィンランドの刑務所での発達支援—北欧における子ども・若者の特別ケアの動向⑯—」(高橋智・田部絢子・内藤千尋・石川衣紀・石井智也, 『内外教育』第6667号, 時事通信社) 14-17頁	2018. 5
	論文(共著)	「スウェーデン等の医療機関における発達障害等の支援—北欧における子ども・若者の特別ケアの動向⑰—」(高橋智・田部絢子・石川衣紀・能田昂, 『内外教育』第6669号, 時事通信社) 12-15頁	2018. 6
	論文(共著)	「スウェーデンのハビリテーション—北欧における子ども・若者の特別ケアの動向⑱—」(高橋智・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋, 『内外教育』第6676号, 時事通信社) 14-17頁	2018. 7

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
田部 絢子	論文(共著)	「スウェーデンにおける摂食障害と発達支援—北欧における子ども・若者の特別ケアの動向⑱—」(高橋智・田部絢子・石川衣紀、『内外教育』第6679号, 時事通信社) 14-18頁	2018. 7
	論文(共著)	「フィンランドの『病気の子どもの特別学校』と発達支援—北欧における子ども・若者の特別ケアの動向⑳—」(高橋智・田部絢子・石川衣紀、『内外教育』第6681号, 時事通信社) 12-15頁	2018. 7
	論文(共著)	「スウェーデンの『特別ニーズ教育庁』—北欧における子ども・若者の特別ケアの動向㉑—」(高橋智・田部絢子・石川衣紀、『内外教育』第6683号, 時事通信社) 10-13頁	2018. 7
	論文(共著)	「スウェーデンの『補助器具センター』と障害者の生活支援—北欧における子ども・若者の特別ケアの動向㉒—」(高橋智・田部絢子・石井智也・石川衣紀、『内外教育』第6685号, 時事通信社) 10-13頁	2018. 8
	論文(共著)	「ノルウェーの女性刑務所と若者支援—北欧における子ども・若者の特別ケアの動向㉓—」(高橋智・田部絢子・石井智也・石川衣紀、『内外教育』第6687号, 時事通信社) 14-17頁	2018. 8
田村 和宏	著書(共著)	「発達保障をめぐる課題2019—発達保障をめぐる動向と私たちの課題—」(中村隆一・田村和宏・安藤史郎他、『人間発達講座 自分づくりを生きるわたし1—あそび—』, 人間発達研究所) 1-25頁	2019. 2
丹波 史紀	著書(共編著)	『原発再稼働と自治体 民意が動かす「3つの検証」』(立石雅昭・にいがた自治体研究所編著, 自治体出版社) 全138頁	2018.11
	論文(単著)	“Regeneration after The Damage Caused by The Nuclear Disaster — Reconstruction policies that help victims regain their dignity” (Discuss Japan—Japan Foreign Policy Forum 50号, 共同通信社) https://www.japanpolicyforum.jp/society/pt20181129090524.html	2018.11
	論文(単著)	「変化する被災地ふくしまと自治体の復興・再生への課題」(『住民と自治』671号, 自治体問題研究所) 22-26頁	2019. 3
	書評(単著)	「松本伊智朗編『子どもの貧困』を問いなおす」(大原社会問題研究所雑誌, 法政大学大原社会問題研究所) 81-85頁	2018.11
筒井 淳也	著書(共著)	『社会学はどこから来てどこへ行くのか』(岸政彦・北田暁大・筒井淳也・稲葉振一郎, 有斐閣) 全372頁	2018.11
	著書(単著)	「社会学におけるワーク・ライフ・バランス」(『大原社会問題研究所雑誌』723巻, 法政大学大原社会問題研究所) 4-16頁	2019. 1
	書評(単著)	「安藤究著『祖父母であること』」(『大原社会問題研究所雑誌』716巻, 法政大学大原社会問題研究所) 80-83頁	2018. 6
	書評(単著)	「脇坂明著『女性労働に関する基礎的研究：女性の働き方が示す日本企業の現状と将来』」(『個人金融』13巻4号, 一般財団法人ゆうちょ財団) 148-149頁	2019. 2
	その他(単著)	「産業の移り変わりと家族・働き方」(『情報労連リポート』35巻6号, 情報産業労働組合連合会) 6-7頁	2018. 4
	その他(単著)	「複眼：ナイトタイムエコノミーの奥行き：働き方改革とセットで」(『日本経済新聞』2018年5月1日)	2018. 5
	その他(単著)	「データで見る地域：3世代同居率」(『日本経済新聞』2018年5月14日)	2018. 5
	その他(単著)	「育児・介護休暇で昇格除外：自治体, 規定撤廃やっ」と」(『日本経済新聞』2018年5月16日)	2018. 5

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
筒井 淳也	その他(単著)	「人口集中の東京で：都が婚活支援なぜ」(『東京新聞』2018年10月28日)	2018.10
	その他(単著)	「経営・家族・教育 専門家三人と振り返る」(『朝日新聞』京都版2019年1月11日)	2019. 1
津止 正敏	論文(単著)	「仕事と介護の両立を考える―『ながら』介護の実態から―」(『季刊個人金融』Vol. 13巻 No. 1 号, 一般財団法人ゆうちょ財団) 44-52頁	2018. 5
	論文(単著)	「男性の介護労働―男性介護者の介護実態と支援課題」(『日本労働研究雑誌』第699号, 労働政策研究・研修機構) 40-51頁	2018.10
	その他(単著)	「変わる介護と家族」(『京都新聞』朝刊) 7 頁	2018. 4
	その他(単著)	「連載『男たちの介護』」(『佼成新聞』第2823号, 立成佼成会) 1 頁	2018. 4
	その他(単著)	「コラム『男の介護』」(『週間金曜日』1224号, 株式会社金曜日) 46頁	2018.10
富永 京子	著書(共著)	『現代文化への社会学 90年代と「いま」を比較する』(高野光平・加島卓・飯田豊編著, 北樹出版) 136-146頁	2018.10
	著書(分担執筆)	『グローバル現代社会論』(山田真茂留編, 文眞堂) 174-190頁	2018.10
	著書(分担執筆)	『ポスト情報メディア論』(岡本健・松井広志編, ナカニシヤ出版)	2018.10
	論文(単著)	「若者のライフスタイル運動との連携の可能性―欧州の消費者運動からの示唆」(『まちと暮らし研究』28巻, 消費生活研究所) 60-67頁	2019. 2
	研究発表等 (単独)	“Protest Tourism: Solidarity and Protest of Young Japanese in the Era of Individualization” (University of Vienna Public Seminar, 於: University of Vienna, Austria)	2018. 5
	研究発表等 (単独)	“Institutionalization Changes the Movement Culture: The Case of Election Campaign Activists in Japan” (International Conference on Multicultural Democracy, 於: 九州大学西新プラザ)	2018. 5
	研究発表等 (単独)	「研究におけるインタビューの技法と倫理」(日本選挙学会大会総会, 於: 拓殖大学文京キャンパス)	2018. 5
	研究発表等 (単独)	“Affection and Mobile Media: The Case of Youth Movement in Japan” (Cultural Typhoon 2018, 於: 龍谷大学大宮キャンパス)	2018. 6
	研究発表等 (単独)	「富永京子著『社会運動と若者: 日常と出来事を往還する政治』(ナカニシヤ出版, 2017年): 書評会」(第70回 社会文化論研究会, 於: 京都社会文化センター)	2018. 6
仲井 邦佳	論文(単著)	「Redefinición de las oraciones bipolares y una nueva clasificación de las oraciones compuestas del español」(『Hispanica』62号, 日本イスパニア学会) 53-78頁	2018.12
	その他(単著)	「スペイン語講座 (33) 条件の接続詞 si 等の表現について (1)」(『Acueducto』第33号) 34頁	2018. 4
	その他(単著)	「スペイン語講座 (34) 条件の接続詞 si 等の表現について (2)」(『Acueducto』第34号) 36頁	2018. 7
	その他(単著)	「スペイン語講座 (35) 結果構文「《tanto ~ que》等の表現について」(『Acueducto』第35号) 34頁	2018.10
	その他(単著)	「スペイン語講座 (36) 関係詞の用法について (1)」(『Acueducto』第36号) 33頁	2019. 1

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
中井 美樹	研究発表等 (共同)	“A latent variable model for a derived ordinal response accounting for sampling weights, missing values and covariates” (Fulvia Pennoni・Miki Nakai, International Conference on Advances in Statistical Modelling of Ordinal Data (ASMOD) 2018, 於: The University of Naples Federico II, Italia)	2018.10
永島 昂	論文(単著)	「高度成長期の鋳物産業(上)」(『立命館産業社会論集』54巻4号) 19-38頁	2019.3
中西 純司	論文(共著)	「市町村行政組織のスポーツ政策経営に向けた展望と課題(Ⅰ)―市町村行政職員のスポーツ政策経営力量に関する仮説的概念モデルの構築」(岡村誠・中西純司, 『立命館産業社会論集』54巻2号) 37-53頁	2018.9
	e-learning 教材開発 (共同)	「2. スポーツの文化的理解 ①近代スポーツの誕生と発展(スポーツの文明化), ②文化としてのスポーツの価値, ③人間とスポーツのかかわり(豊かなスポーツ生活)」(約15分)(平成30年度文部科学省委託事業 専修学校による地域産業中核的人材養成事業「部活動指導員養成事業」報告書, 学校法人三幸学園/東京リゾート & スポーツ専門学校), e-learning サイト名=ブカツゼミ (URL: https://www.learningware.jp/bukatsu/ps/Default.aspx)	2019.3
	研究発表等 (単独)	「体育・スポーツ経営人材養成のための Competency-based Approach とは?」(日本体育・スポーツ経営学会第61回研究集会, 於: 早稲田大学早稲田キャンパス)	2019.1
	研究発表等 (単独)	「スポーツ価値の普及と体育・スポーツ経営現象の多様化―スポーツ経営学の展望と課題―」(日本体育・スポーツ経営学会第42回大会, 於: 静岡大学)	2019.3
	研究発表等 (共同)	「市町村行政職員の『スポーツ政策経営』力量の構造に関する実証的研究―Competency-Based Approachの援用―」(岡村誠・中西純司, 日本体育・スポーツ経営学会第42回大会, 於: 静岡大学)	2019.3
中西 典子	研究発表等 (単独)	「カナダの連邦制にみる中央集権と地方分権のダイナミズム」(地域創成研究会, 於: 和歌山大学)	2018.11
中西 仁	論文(単著)	「祇園祭神輿渡御の担い手の変遷―近代・『四若』を中心として―」(『京都民俗』36号, 京都民族学会) 1-19頁	2018.11
	論文(単著)	「神輿場はなぜ荒れたのか―柳田國男『祭礼と世間』から考える―」(『佛教大学大学院紀要文学研究科篇』47号, 佛教大学大学院) 77-92頁	2019.3
	論文(単著)	「『京都の授業』を創るⅢ―神社の奉納物から日本近代をよむ―」(『宗教社会』23号, 京都教育大学) 1-11号	2019.3
	研究発表等 (単独)	「神輿は誰が昇くのか―京都近代・祇園祭・『四若組』を事例に―」(第898回日本民俗学会談話会, 於: 成城大学)	2018.5
	研究発表等 (単独)	「神輿場はなぜ荒れたのか―柳田國男『祭礼と世間』から考える―」(第37回京都民俗学会年次研究大会, 於: 京都市職員会館かもがわ)	2018.12
永橋 爲介	論文(単著)	「公園・広場の利用・管理・運営や居場所づくりのための検討プロセスとその成果の展望―小さいことから始めて協働の輪を広げ大きなアクションへと移行する漸進的プロセス―」(『西成特区構想 まちづくりビジョン2018-2022 有識者提言書』, 大阪市) 41-46頁	2018.10
	論文(単著)	“The Effect of Environmental Autobiography on Community Development” (Emerging Civic Urbanisms/Designing for Social Impact) pp.330-342	2018.12

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
永橋 爲介	論文(単著)	「環境的自叙伝が幼稚園保護者にもたらした『7つの機会』の再検証」(『立命館産業社会論集』54巻3号) 13-32頁	2018.12
	研究発表等 (単独)	“The Effect of Environmental Autobiography on Community Development” (GREAT ASIAN STREETS SYMPOSIUM/PACIFI RIM COMMUNITY DESIGN NETWORK/STRUCTURES FOR INCLUSION, 於: National University of Singapore)	2018.12
仲間 裕子	論文(単著)	「ハンス・ベルティンクのイメージ論について」(『形象』4号, 形象社)	2019. 3
	研究発表等 (単独)	“Japanese Aesthetics in Contemporary and Traditional Vision” (International Conference: The Idea and Practice of Contemporary Aesthetic Education and Art Education, 於: 北京首都大学, 中国)	2018.11
	研究発表等 (単独)	「交差するモダニズム—陳澄波をめぐる台湾と日本の近代美術」(Arts Town—2019 Taiwan International Conference on Modern Fine Arts, 於: 台南市美術館, 台湾)	2019. 1
中村 正	著書(共著)	『“教育から学習への転換”のその先へ Unlearning を焦点に大学教育を構 想する』(景井充・杉野幹人・中村正, 文理閣) 84-151頁	2019. 3
	著書(分担執筆)	『治療的司法の実践—更生を見据えた刑事弁護のために』(指宿信監修・治 療的司法研究会編著, 第一法規) 1-41・349-366・444-463頁	2018.10
	論文(単著)	「暴力は多様な顔をして関係性に宿ることを読み解く」(『家族療法研究』 35巻1号, 金剛出版) 59-64頁	2018. 4
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (21) 生活世界—街の人びとの生きられた世界—」(『対 人援助マガジン』9巻1号, 対人援助学会) 22-31頁	2018. 6
	論文(単著)	「妄想=暴走する男たち—ハラスメントの要の位置にある男性性ジェン ダー」(『臨床心理学』18巻5号, 金剛出版) 561-565頁	2018. 9
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (22) 暴力の遍在と意識化」(『対人援助マガジン』9巻 2号, 対人援助学会) 23-32頁	2018. 9
	論文(単著)	「つながりすぎないこと」(『青少年問題』第672号, 一般財団法人青少年問 題研究会) 2-9頁	2018.10
	論文(単著)	「治療的司法・正義の理論のために—ケアとジャスティスの統合をともし た問題解決のための理論・実践・制度」(『法と心理』18巻1号, 日本評論 社) 1-3・6-13頁	2018.10
	論文(単著)	「親しい関係性にやどる暴力について—DVを中心に—」(『人権と部落問 題』70巻12号, 部落問題研究所) 38-45	2018.12
	論文(単著)	「臨床社会学の方法 (23) 暴力を認めるが加害を認めない人々との対話」 (『対人援助マガジン』9巻3号, 対人援助学会) 21-30頁	2018.12
	論文(単著)	「暴力の遍在と偏在—その男の暴力なのか, それとも男たちの暴力性なの か—」(『現代思想』47巻2号, 青土社) 64-76頁	2019. 2
	研究発表等 (単独)	「臨床社会学の方法 (24) 暴力を乗り越える」(『対人援助マガジン』9巻4 号, 対人援助学会) 20-29頁	2019. 3
	研究発表等 (単独)	「加害者臨床とパーソナリティ研究の対話」(日本パーソナリティ心理学会 第27回大会, 於: 立命館大学大阪いばらきキャンパス)	2018. 8
	研究発表等 (単独)	「性暴力加害者をなくすための「教育」からみた支援—『ジャスティスクラ イアント』とともに」(第38回日本性科学学会学術集会, 於: 中日パレス, 名 古屋市)	2018. 8

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
中村 正	研究発表等 (共同)	「記憶の多様なかたち～震災・災害の表象論から」(対人援助学会第10回大会企画ワークショップⅢ「被災と復興の証人(witness)になる」とはどういうことだったか?～「東日本・家族応援プロジェクト」の活動を通して、於：立命館大学衣笠キャンパス)	2018.11
		「男性性の傷つきに敏感なジェンダー臨床論のために(その7)―脱男性性をめぐるラビリンス(迷宮)―」(國友万裕・中村正, 対人援助学会第10回大会, 於：立命館大学衣笠キャンパス)	2018.11
根津 朝彦	著書(単著)	『戦後日本ジャーナリズムの思想』(東京大学出版会)全400頁	2019. 3
	論文(単著)	「1960年代という『偏向報道』攻撃の時代―『マスコミ月評』に見る言論圧力 下」(『立命館産業社会論集』54巻1号)91-108頁	2018. 6
	論文(単著)	「資料紹介 桑原武夫所蔵書簡―1920年代の青年期を中心に」(『人文学報』112号, 京都大学人文科学研究所)111-138頁	2018. 6
	論文(単著)	「東大闘争の専従記者から見た『1968年』報道―『毎日新聞』の内藤国夫を中心に」(『国立歴史民俗博物館研究報告』216号, 国立歴史民俗博物館)121-152頁	2019. 3
	研究発表等 (単独)	「桑原武夫の人文知とその魅力」(シンポジウム「桑原武夫を語る」, 於：福井県立図書館)	2018.11
	その他(単著)	「昨日読んだ文庫」(『毎日新聞』2018年12月23日)	2018.12
野田 正人	論文(単著)	「児童自立支援施設におけるアセスメントについて」(『中国児協』2016巻, 中国地区児童自立支援施設協議会)2-5頁	2018. 8
	論文(単著)	「スクールソーシャルワーカーの『福祉に関する支援』から」(『子どもの心と学校臨床』19号, 遠見書房)33-42頁	2018. 8
	研究発表等 (単独)	「子ども時代の傷つき体験の影響について」(井手町解放保育研究集会, 於：玉水保育園, 井手町)	2018.11
	研究発表等 (単独)	「最近の不登校をめぐって」(日本学校ソーシャルワーク学会近畿ブロック研究会, 於：和歌山県民文化会館)	2019. 3
	研究発表等 (単独)	「学校に求められるいじめへの対応と現状」(京都小児科医会 第35回子どものこころと身体懇話会, 於：京都第二赤十字病院)	2019. 3
	研究発表等 (共同)	「虐待相談記録の様式、記述に関する研究」(野田正人・藤間公太, 子ども虐待防止学会おかやま大会, 於：川崎医療福祉大学)	2018.12
野原 博人	論文(共著)	「理科授業における統合的評価に関する事例的研究」(渡辺理文・野原博人・森本信也, 『理科教育学研究』58巻4号, 日本理科教育学会)381-392頁	2018. 6
	論文(共著)	「現代的課題『深い学び』を実現する理科授業デザインの基本的原理」(黒田篤志・野原博人・森本信也, 『関東学院大学人間環境学会紀要』29巻, 関東学院大学人間環境学部)25-41頁	2018. 9
	論文(共著)	「学びを深める対話的な理科授業デザインとその評価」(黒田篤志・野原博人・森本信也, 『関東学院大学人間環境学会紀要』30巻, 関東学院大学人間環境学部)21-37頁	2018.12
	論文(共著)	「子どもにおける科学概念構築を促す対話的な理科授業デザインとその評価」(野原博人・田代晴子・森本信也, 『理科教育学研究』59巻3号, 日本理科教育学会)443-455頁	2019. 3

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
野原 博人	研究発表等 (共同)	「思考・表現する能力を育成する理科授業デザイン—対話的な学習支援の視点から—」(野原博人・黒田篤志・森本信也, 日本理科教育学会第68回全国大会, 於: 岩手大学)	2018. 8
	その他(共著)	「拡張的学習による理科授業デザイン」(野原博人・和田一郎・森本信也, 『理科の教育』67巻, 日本理科教育学会) 42-43頁	2018. 9
長谷川千春	著書(共著)	『福祉国家と地方財政 (21世紀の福祉国家と地域④) 改定版』(渋谷博史・塚谷文武・長谷川千春, 学文社) 142-160・161-186頁	2018. 9
	著書(分担執筆)	「公的年金制度の持続可能性」(柴田努・荒井大輔・森原康仁編著, 『(新版) 図説経済の論点』, 旬報社) 214-217頁	2019. 2
	論文(単著)	「オバマ医療保障改革と無保障者問題」(『健康保険』72巻11号, 健康保険組合連合会) 20-27頁	2018.11
樋口 耕一	研究発表等 (単独)	「KH Coder による分析の考え方と手順: ハンズオンセミナー」(日本商業学会学関東部会 3月チュートリアルセッション「マーケティング研究におけるテキストマイニングの活用」, 於: 一橋大学経営管理研究科千代田キャンパス)	2019. 3
日暮 雅夫	書評(単著)	「永井務著『現代資本主義の終焉とアメリカ民主主義—アソシエーション, プラグマティズム, 左翼社会運動』」(季報『唯物論研究』第144号, 大阪唯物論研究会哲学部会) 150-153頁	2018. 8
	研究発表等 (単独)	「批判的社会理論における新自由主義の概念: ホネットとフレイザー」(人文社会科学協会シンポジウム, 於: カルフォルニア大学バークレー校キャリアセンター)	2018.11
	研究発表等 (単独)	「ハーバースマス討議理論の現代的可能性」(進化経済学会企画「アジア『環境福祉国家論』の展開の可能性」, 於: 名古屋工業大学)	2019. 3
	その他(単著)	「公共圏」(『社会思想史事典』, 社会思想史学会編, 丸善出版) 672-673頁	2019. 1
	そ の 他 (司会・パネリスト等)	「ライブニッツ講義, ライナー・フォアスト教授, 報告 Dr. マーモウド・バッシオーニ, Dr. エヴァ・ブッデベルク, 日暮教授とのパネルディスカッション」(於: 立命館大学創思館カンファレンスルーム)	2019. 3
		Leipzig Lecture, Prof. Dr. Rainer Forst und Vorträge Dr. Mahmoud Bassiouni und Dr. Eva Buddeberg, Panel-Diskussion mit Prof. Dr. Masao Higurashi, Ritsumeikan University, Kyoto.	
福岡 良明	著書(分担執筆)	「九州における地方紙の政治性」(佐藤卓己・河崎吉紀編, 『近代日本のメディア議員: <政治のメディア化>の歴史社会学』, 創元社) 135-160頁	2018.11
	論文(単著)	「『野火』に映る戦後」(『戦争社会学研究』2巻, 戦争社会学研究研究会) 26-42頁	2018. 6
	論文(単著)	“The Construction of Tokkō Memorial Sites in Chiran and the Politics of “Risk-Free” Memories” (Japan review : Journal of the International Research Center for Japanese Studies 33巻, International Research Center for Japanese Studies) 247-270頁	2019. 3
イアン・ホザック	論文(単著)	“Japanese High-School English Teachers as Citizenship Educators: An Exploratory Study” (PhD thesis, University of York) 1-371頁	2018. 8
増田 幸子	研究発表等 (単独)	「NHK 朝の連続テレビ小説における『昭和20年8月15日』」(タイ国日本研究国際シンポジウム2018, 於: チュラーロンコーン大学, タイ)	2018. 8

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
松島 綾	研究発表等 (単独)	“IN but OUT of Asia: Japan’s Complex Self at the Conjunction of Nationalism and Racism” (The 68th International Communication Association Annual Conference, 於: Prague, Czech Republic)	2018. 5
	研究発表等 (単独)	「古典主義時代における統治としての監禁」(日本コミュニケーション学会第48回年次大会, 於: 札幌医学技術福祉歯科専門学校)	2018. 6
	研究発表等 (単独)	“The Intersection of Racism and Nationalism in Japan: A Case Study on Hate Speech Against Korean Residents in Japan” (The 104th National Communication Association Annual Convention, 於: Salt Lake City, UT)	2018.11
	研究発表等 (単独)	“The Rhetoric of Ritsumeikan University’s Peace Museum: Can A Higher Educational Institution Speak for A Community?” (The 104th National Communication Association Annual Convention, 於: Salt Lake City, UT)	2018.11
	研究発表等 (単独)	「17世紀フランスの絶対王政における王の身体の表象」(日本コミュニケーション学会・中部支部大会, 於: 南山大学)	2019. 3
	そ の 他 (司会・パネリスト等)	「コミュニケーション研究と(しての)『コッカイオンドク!』」(日本コミュニケーション学会第48回年次大会, 於: 札幌医学技術福祉歯科専門学校)	2018. 6
松田 亮三	著書(分担執筆)	“Health System in Japan.” (van Ginneken E. Busse R. (eds) Health Care Systems and Policies. Health Services Research., Springer, New York) https://doi.org/10.1007/978-1-4614-6419-8_12-1	2018. 7
	論文(単著)	「医療福祉政策研究への多様な接近—展望」(『医療福祉政策研究』2巻1号, 日本医療福祉政策学会) 3-14頁	2019. 3
	論文(単著)	「刑事収容施設における医療アクセス・質保証に向けて—医療政策・機構研究からの検討—」(『立命館産業社会論集』54巻4号) 1-17頁	2019. 3
	書評(単著)	「田宮菜奈子・小林廉毅編『ヘルスサービスリサーチ入門』」(『医療福祉政策研究』2巻1号, 日本医療福祉政策学会) 137-138頁	2019. 3
	研究発表等 (単独)	「イタリア医療機構の概要」(イタリア家庭医と日本の開業医の未来, 於: 京都府保険医協会)	2018. 6
	研究発表等 (単独)	“How a complex financial system mediates politics: an analysis of the Statutory Health Insurance System in Japan” (The 25th IPSA World Congress of Political Science, RC25.03 Conference in a Conference: International Comparison of Health Policies and Politics, 於: Brisbane, Australia)	2018. 7
	研究発表等 (単独)	「エヴィデンスと政策—批判的実在論からの検討」(第3回批判的実在論研究会, 於: 立命館大学衣笠キャンパス)	2018.11
	研究発表等 (単独)	「刑務所医療改革—国際的動向と日本の課題」(日本医療福祉政策学会第2回研究大会, 於: 立教大学新座キャンパス)	2018.12
	研究発表等 (単独)	“Gradual Tunings for Sustainability: The Japanese Healthcare Reform since the Late 1980s” (Japanese Welfare Model: Continuities and Changes during “the Lost Two Decades”: A Workshop, 於: 立命館大学衣笠キャンパス)	2019. 2
	研究発表等 (共同)	“Universalism under Pressure: The Changing Role of the State in the French and Japanese Healthcare System” (Monika Steffen・Ryozo Matsuda. Japanese Welfare Model: Continuities and Changes during “the Lost Two Decades”: A Workshop, 於: 立命館大学衣笠キャンパス)	2019. 2

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
松田 亮三	研究発表等 (共同)	“Japanese Welfare Model: Continuities and Changes during ‘the Lost Two Decades’” (Ryozo MATSUDA・Masato SHIZUME・Masatoshi KATO, Japanese Welfare Model: Continuities and Changes during “the Lost Two Decades”: A Workshop, 於：立命館大学衣笠キャンパス)	2019. 2
峰島 厚	論文(共著)	「経済成長施策としての『我が事・丸ごと』地域共生社会批判」(山崎光弘・峰島厚, 『障害者問題研究』46巻1号, 全国障害者問題研究会) 72-79頁	2018. 5
	その他(単著)	「2019年の社会保障・社会福祉を私はこう見る」(『福祉のひろば』2019年1月号, 総合社会福祉研究所) 20-23頁	2019. 1
宮口 幸治	著書(単著)	『もっとコグトレ さがし算60 中級』(東洋館出版社) 全100頁	2018.12
	著書(単著)	『もっとコグトレ さがし算60 上級』(東洋館出版社) 全100頁	2018.12
	著書(分担執筆)	『メンタルヘルスの道案内：現代を生きる30章』(徳田完二・竹内健児・吉元洪編, 北大路書房) 118-129頁	2019. 1
	著書(分担執筆)	『特別支援教育(新しい教職教育講座 教職教育編 5)』(原清治・春日井敏之・篠原正典・森田真樹監修, 原幸一・堀家由紀代編, ミネルヴァ書房) 135-151頁	2019. 2
	論文(単著)	「コグトレーみる・きく・想像するための認知機能強化トレーニング, 不器用な子どもたちへの認知作業トレーニング」(『LD 研究』28巻1号, 一般社団法人日本LD学会) 30-38頁	2019. 2
	研究発表等 (単独)	「コグトレとは? 困っている子どもへの治療トレーニング」(第26回岡山小児心身症研究会, 於：マスカットキューブ, 岡山県)	2018. 7
	研究発表等 (単独)	「コグトレーみる・きく・想像するための認知機能強化トレーニング, 不器用な子どもたちへの認知作業トレーニング」(日本LD学会 第27回大会, 於：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター, 新潟県)	2018.11
	研究発表等 (共同)	“Neuro-cognitive Training (Cog-Tr) for Delinquents within a Residential Service in Japan” (Koji Miyaguchi・Naomi Matsuura, The Stockholm Criminology Symposium, 於：Stockholm, Sweden)	2018. 6
	研究発表等 (共同)	「マルトリートメントを受けた非行少年への支援—コグトレの適応」(三宅和佳子他, 日本精神神経学会, 於：神戸ポートピアホテル, 兵庫県)	2018. 6
	そ の 他 (司会・パネリスト等)	「矯正処遇における認知トレーニングの可能性」(宮口幸治・松浦直己・宮口英樹・富田拓, 日本犯罪心理学会, 於：奈良県文化会館)	2018.12
山口 歩	論文(単著)	「温暖化と個人化の関係 図像が教える世紀の転換」(『立命館産業社会論集』54巻3号) 53-65頁	2018.12
	論文(単著)	「日本の原子力発電に関わるデータについて」(『立命館産業社会論集』54巻3号) 67-79頁	2018.12
	論文(単著)	「Debussy のカタチにまつわる5つの断章」(『立命館産業社会論集』54巻3号) 123-145頁	2019. 3
山下 芳樹	著書(単著)	『全ての答えは小学校理科にある(電気・磁気編)』(電気書院) 全182頁	2018. 4
	著書(共編著)	『最新 小学校理科教育法』(左巻健男・山下芳樹・石渡正志編著, 学文社) 全176頁	2018. 4
	著書(共編著)	『初等理科教育』(山下芳樹・平田豊誠編著, ミネルヴァ書房) 全243頁	2018.11

名 前	種 別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所），頁	発行年月
山本 耕平	論文(単著)	「日本の福祉制度における若者福祉の位相―地域若者実践の哲学・課題を中心に―」（2018年第4回自活福祉国際シンポジウム報告集，大韓民国中央自治センター）71-84頁	2018.11
	論文(単著)	「日本の青年支援制度における課題について」（『2018国際青年保障フォーラム』，ソウル市青年活動支援センター）12-21頁	2018.11
	論文(共著)	「韓日における子ども・若者の生活困難状態への路上アウトリーチ―ソウル『動く青少年センター EXIT』の支援実践から―」（深谷弘和・岡部茜・松岡江里奈・山本耕平・丸山里美，『立命館産業社会論集』54巻2号）123-136頁	2018.9
	研究発表等 （単独）	「就労支援から総合的支援へ―日本の若者支援の課題―」（韓・日若者支援フォーラム『韓・日青年層支援政策の現況と課題―日本若者政策の示唆点―』，於：大韓民国国会議員会館 第2セミナー室，韓国）	2018.8
	研究発表等 （単独）	「日本の事例から模索する地域社会での若者支援の方向」（韓国福祉行政学会2018年度秋季学術大会，於：釜山 海雲台グランドホテル，韓国）	2018.10
	研究発表等 （単独）	「日本の若者支援制度について」（2018 若者保障グローバルフォーラム，於：東大門 DDP ナヌン館内，韓国）	2018.11
	研究発表等 （単独）	「日本の福祉制度における若者支援の位相と地域若者実践の哲学・課題」（2018年度 自活福祉国際シンポジウム，於：ヨイド中小企業会館グランドホール，韓国）	2018.11
吉田 誠	論文(単著)	「1950年前後における先任権の日本への移植の試み：ドッジ・ライン期の整理解雇に関する一考察」（『大原社会問題研究所雑誌』721号，法政大学大原社会問題研究所）61-75頁	2018.11
	研究発表等 （単独）	「ドッジ・ラインと先任権移入の試み」（日本労働社会学会大会，於：静岡大学浜松キャンパス）	2018.10